

2026 年度入試結果総評

—広島県—

広島県の公立高校入試は令和5年度から選抜方法が大きく変わりました。これまでは、推薦入試にあたる選抜Ⅰが2月上旬に、一般入試であった選抜Ⅱが3月上旬に実施されていました。令和5年度からは2回の入試が一本化されて、2月末に2日間(学校によっては3日間)の日程で一次選抜(一般入試)が実施されています。

令和8年度の一次選抜の最終志願者数は全日制で13,737名。全日制の定員の合計は14,673名で、志願倍率は0.94倍でした。最終的な受検者数が13,588名だったため、受検倍率は0.93倍でした。昨年(令和7年度)は志願倍率が0.98倍、最終的な受検倍率0.97倍で、全日制全体の倍率は減少傾向が続いています。広島県の公立高校入試は2006年度からすべての県立高校の学区が廃止され、通学区域が全県一円となっているため市内の人気校の倍率が高くなる傾向にあります。全体志願倍率は0.97倍ですが、トップ校である基町高校(普通)は受検倍率が1.35倍。2番手校の舟入高校(普通)は1.15倍。国泰寺高校(普通)1.57倍、皆実高校(普通)1.47倍など、市内の人気校は倍率が高くなっています。

主要校の令和8年度の定員と受検倍率

学校名	学科(コース)	入学定員	受検者数	受検倍率
広島市立基町	普通	320	433	1.35
広島市立舟入	普通	280	322	1.15
広島国泰寺	普通	240	376	1.57
広島皆実	普通	240	353	1.47
広島井口	普通	320	436	1.36
広島観音	総合学科	280	357	1.28
安古市	普通	320	387	1.21
祇園北	普通	280	323	1.15
海田	普通	200	281	1.41
五日市	普通	240	250	1.04

令和5年度入試と令和6年度入試は近年の中でも高い平均点となりましたが、令和7年度入試は一転して5教科平均が22.6点と、前年度より3.5点下がりました。令和8年度入試も、5教科平均はほぼ昨年通りの22.9点となりました。国語の26.0点が最も高く、英語の20.2点が最も低くなっています。広島県の公立入試は、他都道府県と比較しても平均点が低い結果となっていますが、いわゆる「難問」という類の出題が多いわけではありません。科目によらず長文の問題が多いために設問の意図の理解や条件の整理が難しかったり、記述問題の割合が高いために解答のまとめ方が難しかったりすることなどが理由として考えられます。問題文を丹念に読み解く力や、条件を整理する力、そして自分の解答をまとめる力をしっかりと身につける必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ・一次選抜の平均点推移(各50点、250点満点)

教科	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	25.6	23.9	23.5	23.6	26.5	21.5	24.6	26.2	29.5	21.4	26.0
社会	21.2	19.3	18.0	21.6	22.0	26.5	23.3	25.8	26.9	24.4	21.8
数学	24.8	23.0	22.4	21.0	28.2	21.1	20.2	22.6	23.7	19.6	20.7
理科	19.7	17.1	19.1	23.3	28.6	24.4	18.8	25.3	26.1	26.2	25.8
英語	23.7	15.9	24.4	21.3	23.9	21.1	20.4	24.0	24.1	21.4	20.2
5教科平均	23.0	19.8	21.5	22.2	25.8	22.9	21.5	24.8	26.1	22.6	22.9